



2月18日(土) 天気:曇り
3日前に降った雪も解け、春に向かう兆しを感じられる日となりました。

今日は杉本サポーターの指導のもと、シイタケ菌の駒打ちを体験しました。

約1mの長さに切ったクヌギの原木に、インパクトドライバーを使って約15cmの間隔で、約30個の穴を開けました。インパクトドライバーを使うことが初めての塾生は、初めのうちは大変でしたが、案外、簡単に穴を開けることができました。次に、シイタケ菌を1個ずつ金づちを使って埋め込みました。

25本の原木に、全部で800個のシイタケ菌の埋め込み、森公苑のシイタケ置き場の一角に、仮伏せし、菌の繁殖を待ちます。今日、菌を打ち込んだホダ木からは、夏を2回越した来年の秋頃にシイタケが収穫できるとのことです。

次に、丹波縄文の森塾の参加を記念して、公苑内に植樹をしました。

1班はハウチワカエデ、2班はイチイガシ、3班はトサミズキ、4班はライラック、5班はモモの苗木を植えました。まずスコップで植穴を掘り、そこに赤玉土、腐葉土、培養土などを混ぜて入れ、苗木を植付けました。花の咲く木や、実のなる木もあり、しっかり根をはり、大きく育つことを願ってみんなで植えました。





昼食は丹波大納言小豆のおこわときのこ汁です。

丹波大納言小豆は、丹波の代表的な特産物「丹波三宝」のひとつ。

おこわに使ったもち米は、塾生が秋に収穫したものです。また、きのこ汁に入っているシイタケは、先輩の塾生が菌の駒打ちをしくれたもので、おいしくいただきました。

お昼休みには、杉本サポーターが作ってくれた竹トンボを飛ばして遊びました。



午後からは、角谷森づくり活動アドバイザーの案内で、公苑内を散策し、樹木の冬芽の観察をしました。

コナラ、ケヤキ、エノキ、ミツバツツジ、コブシなどの冬芽をそっと触って、手触りや固さ確かめました。

また、国蝶オオムラサキのゲージでは、エノキの幹の側の落ち葉をめくって、隠れているオオムラサキの越冬幼虫探しをしました。

